

高千穂神楽殿における神楽鑑賞

11月から翌年2月の年末の間に行われる夜神楽をご覧になれない方のために、高千穂神社の神楽殿では、毎晩夜8時より年間を通して公演を行っています。

夜神楽（夜に行われる神楽）は夕暮れから夜明けにかけて行われる舞踊劇のような神道芸能です。この高千穂の風習は、800年以上の歴史があり、1978年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。夜神楽は、地元の住民を中心に行っているものですが、最近では、神楽を楽しみにする観光客の方が増えてきました。そこで、高千穂の伝統を楽しんでもらうために、三十三演目の中から代表的な四番を選んで、現在では毎晩公開しています。

「手力雄の舞」 「鈿女の舞」 「戸取の舞」 「ご神体の舞」

初めの三つの舞は、日本神話の天岩戸のお話で、天照大神が弟の乱暴な行動に激怒し、天の岩戸屋の中に閉じこもってしまったところから始まります。これにより世界は、暗黒に包まれてしまい、困惑した天高原の神々が、天照大神を誘い出そうとします。

- 手力雄の舞では、手力男命の偉大な力を描いており、あらゆる方法を使って天照大神を探し出し、最後には天岩戸を取り払います。
- 鈿女の舞では、天鈿女命が天岩戸の前で乱舞します。この舞はとても華やかであり、集まった神々が大声で笑ったため、天照大神の好奇心がかきたてられ、洞窟の外を見ようと岩戸を開けました。この舞が神楽のはじまりと伝えられています。
- 戸取の舞は、手力男命が偉大な力をつかって天岩戸をつかみ、取り払います。最初の舞の中で、手力男命は白い顔で黄色の髪ですが、この舞では、天岩戸を取り除く際力を込めたため、真っ赤な顔で真っ黒の髪になります。

最後の舞、ご神体の舞は、日本を生んだ夫婦の神、伊弉諾尊と伊弉冉尊の結婚の演目です。幸せな夫婦となって、新鮮な稲からお酒を作り一緒に飲みます。この演目では、夫

婦円満、子授安産、豊穰祈願が奉納されます。伊弉諾尊と伊弉冉尊は、愛想よく舞台の下に降りてきて、幸運にも祝福を授かる観客もいます。